



幸せを夢見て、殺人を繰り返す母娘。

不条理文学のカミュが描く、現代の『悲劇』。

新芸術監督・小川絵梨子のシーズンオープニング作品がついに登場！



【芸術監督】小川絵梨子



【翻訳】岩切正一郎 【演出】稲葉賀恵



原田美枝子 小島 聖 水橋研二 深谷美歩 小林勝也

【チケット好評発売中 ☎ 新国立劇場ボックスオフィス 03-5352-9999】

写真・資料のご請求、取材のお問い合わせ

©新国立劇場 制作部演劇 広報担当

TEL: 03-5352-5738 / FAX: 03-5352-5709

©新国立劇場 制作部演劇 制作担当

TEL: 03-5352-5736



新国立劇場

<http://www.nntt.jac.go.jp>

◎作品について

小川絵梨子芸術監督シーズンのオープニングは、20世紀フランスの劇作家、作家アルベール・カミュの『誤解』を上演します。

カミュの戯曲は我が国でも折に触れ上演されてきましたが、とりわけ『誤解』は1951年の文学座の日本初演以来何度も上演されている、比較的馴染みのある作品です。今回、新国立劇場で初めてカミュを上演するにあたり、その演出を担うのは、文学座の演出陣でも、最近その活躍が注目されている新鋭、稲葉賀恵です。文学座アトリエの会で上演された『十字軍』（ミシェル・アザマ作）、『野鴨』（イブセン作）での緻密で丁寧な舞台創りが高く評価されたのも記憶に新しいところです。

若い演出家が挑む、21世紀のカミュ、ご期待ください。

◎あらすじ

ヨーロッパの田舎の小さなホテルを営むマルタとその母親。今の生活に辟易としているマルタは太陽と海に囲まれた国での生活を夢見て、その資金を手に入れるため、母親と共犯してホテルにやってくる客を殺し、金品を奪っていた。そこに現れる絶好の的である男性客。いつも通り殺人計画を推し進めるマルタと母親だが、しかし、彼には秘密があったのだった……。

◎翻訳 岩切正一郎からのメッセージ

『誤解』の物語の出発点は、1935年に新聞の三面記事に載ったウクライナの町での殺人事件だ。翌年カミュは当時のチェコスロヴァキアに旅し、そのときの経験をもとに舞台をチェコの町に置いて戯曲を構想し、1943年に原稿をガリマール社に送った。初演は1944年6月、ナチ占領下のパリである。執筆当時カミュはアルジェリアの太陽、海、家族から隔絶されて、南仏の山間の町にいた。戯曲の舞台となる町はこの閉塞した、自由のない、息苦しい状況を反映している。そして太陽と海に憧れているヒロインのマルタにカミュは自分を投影している。

『カリギュラ』を含む「不条理」三部作、に続く「反抗」をテーマとするサイクルに『誤解』は属する。カミュはこの作品で「現代の悲劇」を書こうとした。悲劇の世界にいる人間とその反抗。彼自身の説明によると、台詞の言葉は、悲劇的であるために書き言葉の性質を持つと同時に、芝居として成立するような自然さも持ち合わせていなくてはならない。自然な感じで始まり、幕を追うごとに「神話の高み」へ至る言語と劇的効果。これを日本語にするのはなかなか大変そうではある。閉塞、息苦しさ、本来いるべきではない所へ追放されている感覚。それを見つめ、反抗するために、今、日本でこの作品を上演する意義は大きい。稲葉さんと台本をしっかりと作り上げていきたい。

◎演出 稲葉賀恵からのメッセージ

「誤解」はカミュが1942年から43年にかけて執筆した2作品目の戯曲です。カミュは本作を「暗い芝居」ではあるが「絶望的な芝居」ではないと述べました。私はこの作品を一読した時、「絶望的な運命」に対して抗おうとする登場人物達の力強いエネルギーを感じました。所謂「悲劇」と分類されるこの作品にはその他の作品を凌駕するエネルギーのぶつかり合いがあります。

「兄妹間の争い」「不条理な運命に対する抵抗」「殺人、自死に対する葛藤」「祖国からの逃亡と異国への憧憬」、一つ一つの素材がぶつかり合う力はなぜこんなにも激しいのか。それは、どちらか片方が善い、悪いという訳ではなく、互いに正しく筋道が通っているからです。そして互いの側から見ると善であり同時に悪でもある。今日、白か黒か二極化し線引きすることの安易さ、恐ろしさを感じざるを得ない社会の中で、善悪というものは言わずもがな表裏一体であること、そしてそれらが互いに衝突することで起こる混沌とした、しかし大きなエネルギーの塊を演劇という表現を介して想像してみることが、本作を上演することの大きな意味だと私は思っています。

◎スタッフプロフィール

アルベール・カミュ (Albert CAMUS)

フランス領アルジェリア出身の小説家、劇作家、哲学者、思想家。第二次世界大戦中に発表した小説『異邦人』やエッセイ『シーシュポスの神話』等で注目を集める。戦後はジャーナリストとして活躍すると共に、劇作家としても『カリギュラ』『誤解』などの戯曲を発表。1957年、43歳の時に戦後最年少でノーベル文学賞を受賞。主な作品に小説『ペスト』『転落』『追放と王国』、戯曲『戒厳令』『正義の人びと』、エッセイ・評論『キリスト教形而上学とネオプラトニズム』『反抗的人間』などがある。

岩切正一郎 (IWAKIRI Shoichiro)

1959年、宮崎県生まれ。東大文学部(フランス文学専修)卒、同大学院博士課程満期退学。国際基督教大学教授。戯曲翻訳家、詩人。音楽劇・戯曲翻訳として、ラミュストラヴィンスキー『兵士の物語』(演出・山田和也)、アヌイ『ひばり』、カミュ『カリギュラ』(共に演出・蜷川幸雄)、ラヒミルモワーズ『悲しみを聴く石』(演出・上村聡史)、ラシーヌ『フェードル』(演出・栗山民也)、シュミット『謎の変奏曲』(演出・森新太郎)、アルカン/ブラッサール『この熱き私の激情』(演出・マリー・ブラッサール)など。第15回湯浅芳子賞(翻訳・脚色部門)受賞。新国立劇場ではベケット『ゴドーを待ちながら』、サルトル『アルトナの幽閉者』、ジロドゥ『トロイ戦争は起こらない』の翻訳を手掛けている。

稲葉賀恵 (INABA Kae)

日本大学芸術学部映画学科監督コース卒。2008年文学座附属演劇研究所48期生として入所。2013年座員に昇格。座員に昇格した13年、文学座アトリエの会『十字軍』にて文学座初演出。その後、鶴山 仁、高瀬久男、上村聡史、青木 豪などの演出助手を務める。その他の演出作品に、日生劇場ピロティ公演『マリアナピネーダ』、文学座アトリエの会『野鴨』、シアタートラムネクストジェネレーション『解体されゆくアントニンレーモンド建築旧体育館の話』、東映ビデオ『野良女』、オフィス300『川を渡る夏』、豊橋芸術劇場PLAT『ガンボ』、project navakov『ヘッダ・ガーブレル』、ぶんがくぎなつやすみこどもフェスティバル『ヘンゼルとグレーテル』など。

◎出演者プロフィール

原田美枝子 (HARADA Mieko)

1974年、映画『恋は緑の風の中』にて主演デビュー。76年には『大地の子守歌』『青春の殺人者』で10代にしてブルーリボン賞やキネマ旬報主演女優賞などを受賞。その後『乱』『火宅の人』『雨あがる』『OUT』など数多くの映画のほか、テレビドラマ、舞台にて活躍。特に映画『愛を乞うひと』では日本アカデミー賞最優秀主演女優賞ほか多くの賞を受賞。現在放送中のNHKドラマ10「透明なゆりかご」に出演。

主な舞台としてはオペラ『眠れる美女～House of the Sleeping Beauties～』『ブエノスアイレス午前零時』『祈りと怪物 ウィルヴィルの三姉妹 Ninagawa Version』『メアリー・ステュアート』ほか。

小島 聖 (KOJIMA Hijiri)

1989年、デビュー。1999年、第54回毎日映画コンクール女優助演賞を受賞。情感あふれる演劇力と存在感で、映画、舞台、ドラマなど幅広く活躍中。コンスタントに話題の映像に出演する一方で、舞台でもさまざまなジャンルの演出家と組み、次々に話題作に出演。また、最近では旅と食について綴った初エッセイ『野生のベリージャム』を刊行。

主な舞台としては近年では『この熱き私の激情』『DISGRACED／ディスグレイスト・恥辱』『海の風景』『GS近松商店』『正しい教室』などに出演。新国立劇場では『温室』『アルゴス坂の白い家・クリュタイムストラ』『やわらかい服を着て』『二人の女兵士の物語』『ゴロヴリョフ家の人々』『なよたけ』に出演。

水橋研二 (MIZUHASHI Kenji)

1996年に、映画『33 1/3 r.p.m』にて主演デビュー。以降、映画、テレビドラマ、CM、舞台、声優と多方面にて活躍。近年では映画『かぞくいろ—RAILWAYS わたしたちの出発—』『イマジネーションゲーム』『ラーメン食いてえ！』『ジョジョの奇妙な冒険 ダイヤモンドは砕けない 第一章』、テレビドラマ『GIVER—復讐の贈与者—』『記憶』『闇の伴走者—編集長の条件—』『ヘヤチョウ』『真田丸』『医師たちの恋愛事情』などに出演。

主な舞台としては『やぶれた虹のなおしかた』『金閣寺』『オセロ』『十三人の刺客』など。新国立劇場には初登場となる。

深谷美歩 (FUKAYA Miho)

新国立劇場演劇研修所2期生、さいたまネクストシアターを経て現在に至る。近年では舞台の他に、映画『岸辺の旅』『R100』などにも出演。

主な舞台としては『野良女』『きらめく星座』『頭痛 肩こり 樋口一葉』『地獄のオルフェス』『神なき国の騎士』など。新国立劇場では『るつぼ』『雨』に出演。

小林勝也 (KOBAYASHI Katsuya)

文学座座員。重厚な役柄から軽妙な役柄まで、変幻自在に演じ分けるその確かな演技力で劇団の公演はもとよりプロデュース公演の他、テレビ、映画にも数多く出演している。映画『THE LAST MESSAGE 海猿』、テレビドラマ『JIN-仁-』『不毛地帯』『臨場』などに出演。第11,12,16回読売演劇大賞・優秀男優賞受賞。

主な舞台としては『バリターク』『荒れ野』『かもめ』『トロイラスとクレンダ』『国民の映画』など。新国立劇場では『天守物語』『アルゴス坂の白い家・クリュタイムストラ』『マクベス』『新・地獄変』『怒涛』に出演。

◎公演概要

【タイトル】 誤解 (The Misunderstanding)

【スタッフ】

作:アルベール・カミュ

翻訳:岩切正一郎 演出:稲葉賀恵

美術:乗峯雅寛 / 照明:服部 基 / 音響:加藤 温 / 衣裳:原 まさみ
/ ヘアメイク:川端富生 / 演出助手:高野 玲 / 舞台監督:村岡 晋

芸術監督:小川絵梨子

主催:文化庁芸術祭執行委員会、新国立劇場

【キャスト】 原田美枝子 小島 聖 水橋研二 深谷美歩 小林勝也

【会場】 新国立劇場 小劇場 (京王新線 新宿駅より1駅、「初台駅」中央口直結)

【公演日程】 2018年10月4日(木)～10月21日(日)

【料金】 A席6,480円、B席3,240円、Z席1,620円(税込)

【チケット申し込み・お問い合わせ】※8/11(土祝)10:00一般発売

新国立劇場ボックスオフィス TEL:03-5352-9999 (10:00～18:00)

新国立劇場Webボックスオフィス <http://pia.jp/nntt/>

* **Z席1,620円** 公演当日10時よりボックスオフィス窓口で販売。1人1枚。電話予約不可。* **当日学生割引** 公演当日残席がある場合、Z席を除く全ての席種について50%割引にて販売。要学生証。電話予約不可。* 新国立劇場では、高齢者割引(65歳以上5%)、障害者割引(20%)、学生割引(5%)、ジュニア割引(中学生以下20%)など各種の割引サービスをご用意しています。